

「離婚と子どもの障害」

公益社団法人家庭問題情報センター 笠松 奈津子

三〇代後半のよし子さんは、夫と離婚の話し合いをしています。思うように進まず苦しんでいるようです。

よ (よし子) 夫は家を出て愛人を作り、離婚を求めてきましたが、発達障害の子ども

がいるので、どうするつもりなのと離婚に応じませんでした。すると、二年間行方くらましましたのです。最近、所在がわかり、今度は私が離婚を求めています。

当然、子どもと私がこれから生きていくために、それなりの経済的給付を求めています。収入が少なく支払えないといいますが、

カ (カウンセラー) 離婚と親権者には合意ができたものの、金銭面では合意ができません。離婚後の子どもとの面会はどのようなでしょう。

よ 夫は、人生をリセットしたいといっています。子どもとの面会など望んでもいません。

この二年間、私がどんな思いでいたかわかりませんか。子どもはこだわりがとて強く、ひたすら私は忍耐を強いられています。それでも子どもを否定せず、良いところをほめています。

専業主婦でしたが、実家の母の協力で、資格を取り正社員になりました。毎日毎日

のストレスでフラフラです。私が倒れるか子どもが不安定になるか、ぎりぎりの生活です。

カ こだわりの強いお子さんとの生活はたいへんですよね。

よ 私は夫にこの重さを一緒に背負ってほしいのです。

カ とても重く感じているのですね。

よ そこから逃げだした夫に、謝ってほしいのです。

カ 背負わなかったことを謝ってほしいと。

よ 夫とは友人を介して知り合い、少し頼りないけれど、優しくかったので結婚しました。三年たつて妊娠がわかり、夫もとても楽しみにしていました。子どもが無事産まれ、夫はとても喜び、いいパパぶりを発揮していました。

ところが、一歳を過ぎて、どうも子どもの様子が気になりました。水遊びが好きで、公園に行っても水道のところですつと遊んでいます。おもちゃは、電車のおもちゃしか興味をもちませんし、特定のものをきまった順番に並べたり、並べ替えたりの繰り返しです。夫にそのことを話すと、「気のせいだ」「男の子はそんなものだ」と、話を聞いてくれません。

半年に一度、友人たちと旅行に行くのですが、うちの子がほかの子どもたちとは一

緒に遊ぼうとせず、ひとりだけ様子が違うので、さすがに夫も不安を感じ、以来、仲間との旅行に行かなくなりました。

三歳児検診で、発達の専門外来を紹介されました。夫は一緒に行ってくれませんでした。心理の先生の面接、子どもの行動の観察、小児精神科医の診察と、いろいろな検査の結果、発達障害と診断されました。私はこれからどうしたらよいのか、絶望を感じました。

病院の親子通園教室を紹介され、見学させてもらいました。いろいろな子どもたちがいました。すぐには、自分の子どもも同じような障害を抱えているということを受け入れられませんでした。とても複雑な思いでうちへ帰りました。

力 よくお話してくれましたね。

初めてのお子さんが障害を抱えていることを受け入れるのは、お母さんにとって最初の試練です。それを口にするこ自体、勇気のいることです。

よ 夫に診断を受けたことを話すと、まさか自分の子がそんなはずはないと否定するのです。

そのうえ、私の育て方が悪い、病院に行かないで、自分で努力しろという始末です。

力 障害があるからではなく、あなたの育て

方が悪いからだというのです。

よ そのときの屈辱は今でも涙が出てきます。

夫の両親も、かわいがっていた孫をじろじろ観察し、私の子どもへの接し方をチェックするのです。このとき、この子を育てていくのは母親である私しかいないと、覚悟をしたように思います。

一か月後にもう一度病院へ行くことになっていましたから、そのときだけは夫も一緒に行くように約束させました。

力 子どもを育てていく覚悟はしたものの、ご主人にも、お医者さんからきちんと言話を聞いてほしかったのです。

よ ところが、その前日から夫は帰ってこなくなりしました。しばらくは実家にいたようですが、その後、女性ができたのです。

力 子どもの障害がわかったとたん家を出ていき、女性関係を作り、離婚を要求してきたと。

よ まさにそういうことです。

そんな夫と一緒に背負わなかったことを謝ってほしいというのは、無理な話ですよね。

力 離婚の決着には、金銭面だけでなく、謝罪のことがほしいのです。

よ でも、こうやって振り返ってみると、私は子どもの障害を背負うことができたけ

れど、夫にはその力がなかったのです。最低限の養育費は負担することで父親としての責任は果たしてもらいたいと思いますが、私こそ、夫へのむなしい期待はリセットしたと思います。

夫への怒りに震えるよし子さんでしたが、夫と子どものことを語るうちに、前向きに歩き出す気持ちを持つようです。

しかし、障害のある子どもに対してこそ、別れた父親からのサポートは必要です。よし子さんとお子さんの将来を案じずにはられません。

